

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

生態と防除



大阪府 環境農林水産部 農政室 推進課
病害虫防除グループ

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)とは？

- 正式な和名は、スクミリンゴガイ(竦み林檎貝、学名 *Pomacea canaliculata*)。在来タニシとは異なる科に属する貝で系統的にはかなり異なる種。中南米に生息する淡水産の大型巻貝で、在来タニシ類に比べて大きく、成長すると体長5～8cmに達する個体もある。(写真:表紙左上)
- 水田では柔らかい草を食べる。田植直後の苗を食害することから稲の害虫とされ、他にもハス(レンコン)も食害する。
- 卵は濃いピンク色で、ブドウの房のような目立つ卵塊で産みつけることから本種の定着が確認できる。在来タニシ(卵胎生で卵は産まない)とは容易に区別がつく。産卵場所は、稲の茎や葉の付け根(葉鞘)、あぜ板、用水路の壁面など。(写真:表紙右上)
- 春～夏に活動し、秋の水温の低下や落水などに伴って土の中に潜り、越冬する。

形態と生態

・卵



- ・卵塊の大きさは長さ3cm、幅1.5cm程度が多い。

- ・色は濃いピンク色でよく目立つ。
- ・200～300個程度の卵からなる卵塊を作る。
- ・ふ化直前は白っぽく、ふ化すると白色になる。
- ・卵は水中ではふ化できないため、卵塊を水中に払い落とすことで駆除が可能。ただし、ふ化直前の白っぽくなった卵は水中でふ化可能であるため、除去又は押しつぶすことが必要。
- ・PV2という神経毒が卵に含まれるため、卵を食べる天敵はほぼいないとされる。



- ・ふ化直後の稚貝。白っぽい卵塊を水中に入れると2時間ほどでふ化した。

・成貝



- ・殻高2～7cm程度。殻口は大きく、角質のふたを有する。

- ・ふ化後2カ月で繁殖が可能となる。年間産卵数は3,000個以上にも達することがある。
- ・寿命は2～3年で、多くの個体は2年目の産卵期を終えると寿命を迎える。
- ・摂食活動は水温15～35℃で行い、14℃以下では活動を停止し休眠する。
- ・雑食性。特に柔らかい植物を好むため、田植直後の稚苗を食害する。
- ・低温耐性は強くないが、府内では越冬が可能。
- ・蓋を閉じて殻の中の乾燥を防ぐことで、半年以上水がなくても生存が可能。
- ・成貝はコイ、ザリガニ、鳥類、肉食昆虫などの天敵がある。

スクミリングガイによる被害と防除のポイント

- 主に**田植え直後(約20日間まで)**の苗が**食害**され、**欠株**になる
・田植え時に1㎡当たり2頭以上生息していると、減収が予想される。

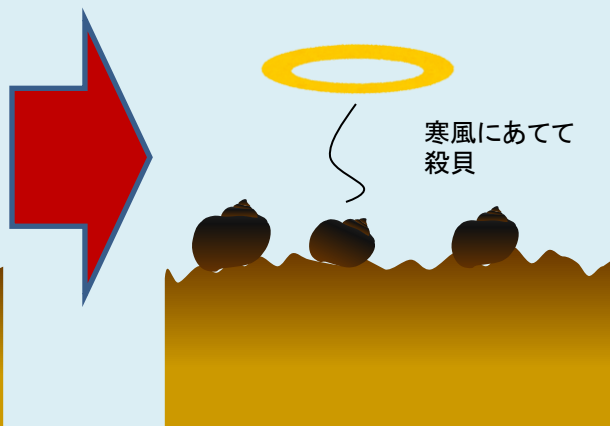


▲食害され、欠株を生じた水田

- しかし、スクミリングガイには
①成長した稲(5葉期以降)は食害しにくい
②浅水(水深4cm以下)では、活動しにくい などの特徴がある
⇒**加害時期(田植え直後 約20日間まで)**の**重点的な防除と、浅水管理がポイント**

防除方法については、次ページの「農薬を使わない防除(耕種的防除)」と、別紙「農薬による防除(薬剤防除)」を参照してください。

- スクミリングガイは寒さに弱く、水温が15度を下回ると土中に潜り、越冬する。
越冬時は土中の浅いところに潜って越冬することが多い。
⇒稲刈り後、**冬期にロータリーの回転数を早くして耕うんすると貝をひき潰す**ことができる。特に食害被害が大きな成貝に効果が高い。
⇒土中に潜っている貝を掘り起こし、寒風にあてることで殺貝することができる。
- スクミリングガイは水がなくなると土中に潜り、蓋を閉じて耐える。
しかし、**1年以上水がない場所ではほとんど生き延びることはできない。**
⇒田畑輪換を行うことで貝の密度を低下させることができる。



農薬を使わない防除（耕種的防除）

①貝の密度を低くする

【栽培期間中】

- ・卵塊は水中にかき落とし（濃いピンク色の卵は水中で窒息死するので）、成貝は捕殺する。
- ・ふ化直前の白っぽい卵は逆に水中でもふ化するため、水中に落とさず除去する。
- ・寄生虫を持っている場合があるので、素手で触らず、ビニール手袋などを使用する。
- ・成貝の捕殺には野菜くずを誘引餌とした捕獲トラップも有効。

【栽培前、栽培後（本田以外）】

- ・稲刈り後、耕うんして貝をひき潰す。
- ・土中の浅いところ（6 cm未満）に潜って越冬することが多いため、耕うんを浅く、ロータリーの回転を速くする。
- ・耕うん機などに土と一緒に付着することがあるので、他のほ場等へ移動する際は、しっかり土を落とす。
- ・田畑輪換をおこなう（水田と畑作を1年ずつ交互に行うほ場では被害回避効果が高い）
- ・水路周辺の卵塊、成貝の捕殺を行う
- ・冬期に水路の泥上げを行い、泥中で越冬している貝を殺貝する。

②侵入を防ぐ

用水路からの侵入を防ぐため、取水口や排水口にネットや金網（約 5 mm目）を設置する。

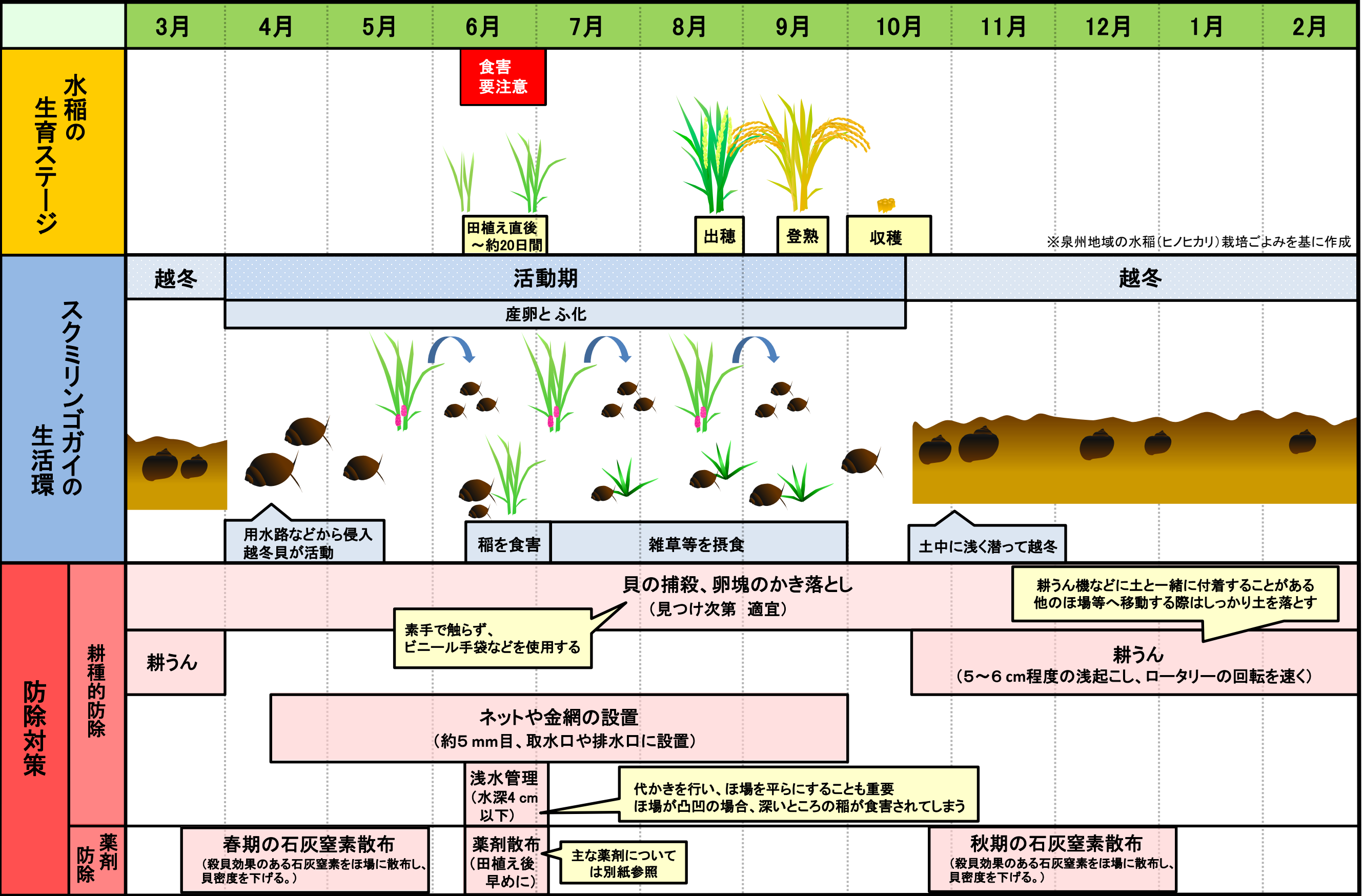
③食害を防ぐ

【栽培期間中】

- スクミリングガイは水がないところは移動できず、水深の深いところの苗を食害する。行動を抑制するため、加害時期（田植え直後 約20日間）には水深 4 cm以下の浅水管理を行う。
 - ・耕起時からほ場の均平を保つよう注意し、代かきを丁寧に行い、田面を平らにする。（田面が凸凹の場合、深いところの苗が食害されてしまう。）
 - ・田植え直後に降雨等で水深が深くなると食害を受けやすくなる。浅すぎる場合には活着不良や生育不良、除草剤の効果低下につながるため、注意を払う。

スクミリンゴガイの生活環と防除対策

大阪府環境農林水産部農政室推進課 病害虫防除グループ



※泉州地域の水稲(ヒノヒカリ)栽培ごよみを基に作成

大阪府内におけるスクミリンゴガイの発生状況



府内のスクミリンゴガイの発生地域は拡大中

1986年（昭和61年）

1998年（平成10年）

2017年（平成29年）

2024年（令和6年）

泉州地域等で大発生し、
大きな被害

府内ほぼ全域で発生。
被害は河川、水路などを通じて拡大する。
そのため、未発生の地域でも注意が必要！

■ 当該年度調査で新たに発生を確認
■ 従来より発生を確認

（植物防疫協力員報告及び巡回調査を基に作成）

国内での状況

- 1980年代に食用として国内に導入され各地に養殖場が作られた。廃棄されたり逃げ出した貝が水田や河川に拡がり、80年代中に現在の分布北限の関東地方にまで到達した。
- 2000年ごろまでは農業被害発生のお大半は九州・沖縄等西日本に集中していた。
- 九州以外でも徐々に発生が増え、2020年には生息確認31府県のうち11府県で多発するなど、広範囲で農業被害が深刻化している。

被害拡大の要因

①温暖化と集中豪雨

・春から初夏の移植時に、集中豪雨により深水になる、夏の高温による貝の活性化など要因で被害が拡大している。

②暖冬による越冬量の増加

・暖冬により越冬量が増加し、分布域も拡大している。

お問い合わせ先

名称及び所在地	代表電話番号(直通番号) FAX番号
大阪府 環境農林水産部 農政室 推進課 病害虫防除グループ 583-0862 羽曳野市尺度442	直通のみ(072-957-0520) FAX 072-956-8711
大阪府 北部農と緑の総合事務所 農の普及課 567-0034 茨木市中穂積1-3-43 三島府民ビル内	072-627-1121(622-3435) FAX 072-623-4321
大阪府 中部農と緑の総合事務所 農の普及課 581-0005 八尾市荘内町2-1-36 中河内府民ビル内	072-994-1515(922-3070) FAX 072-991-8281
大阪府 南河内農と緑の総合事務所 農の普及課 584-0031 富田林市寿町2-6-1 南河内府民ビル内	0721-25-1131 (25-1174) FAX 0721-25-0425
大阪府 泉州農と緑の総合事務所 農の普及課 596-0076 岸和田市野田町3-13-2 泉南府民ビル内	072-439-3601(439-0167) FAX 072-438-2069
大阪府 環境農林水産部 農政室 推進課 地産地消推進グループ 559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16 咲洲庁舎22階	06-6941-0351(内線6744) FAX 06-6614-0913

農作物の病害虫に関する情報は

■ 大阪府環境農林水産部農政室推進課 病害虫防除グループホームページ

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html>

大阪府農作物病害虫防除指針(Web版)等を公開しています



環境農林水産部 農政室 推進課 病害虫防除グループ

〒583-0862 羽曳野市尺度442

TEL 072-957-0520 FAX 072-956-8711

スクミリンゴガイの薬剤防除

(別紙)

農薬による防除（薬剤防除）

- 田植え前、または刈取後に石灰窒素を施用する
 - ・田植え前に使用する場合以下の使用方法がある。
(方法1) 荒起し → 全面に散布 → 3～4cmに湛水 → 3～4日放置後植代を行う。
(方法2) 荒起し → 3～4cmに湛水し → 3～4日後全面に散布 → 3～4日放置後植代を行う。
なお、田植えは石灰窒素の施用から7日以上経ってから行う。
 - ・刈取後に石灰窒素を施用する場合、水温が17℃以上の時に施用する。
- 田植え後、できるだけ早い時期に下記の薬剤を使用する
 - ・田植え直後に散布する場合は、水中の濁りがなくなってから使用する。
 - ・食害の集中しやすい、深水部分だけにスポット散布するだけでも、被害を抑えられる。

水稻のスクミリンゴガイの主な防除薬剤

(令和7年5月12日現在)

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
スクミノン	1～4kg/10a	収穫60日前まで	2回以内(※1)
ジャンボたにしくん	1～2kg/10a	収穫60日前まで	
スクミンベイト3(※2)	2～8kg/10a	発生時	－
パダン粒剤4(※3)	4kg/10a	収穫30日前まで	6回以内

※1 スクミノン、ジャンボたにしくんに含まれる成分メタアルデヒドの総使用回数は、2回以内。

※2 スクミンベイト3は、大阪エコ農産物認証制度において農薬使用成分回数にカウントされない

※3 パダン粒剤4は食害防止

農薬の登録内容は変更されることがあるので、
使用前にはもう一度ラベルをよく確認しましょう！



水田では、農薬散布後 **7日間**程度は止水しましょう

■ 農薬効果の安定のために

- ・除草剤や粒剤の散布後7日間程度は落水やかけ流しをしない。
(農薬散布後、成分が水面に拡散して土壌に吸着される前に落水やかけ流しをすると、効果が薄れる場合がある)

■ 環境への影響軽減のために

- ・凸凹がないよう耕起・代ききは丁寧に行う。
- ・事前に水持ちを確認し、小動物などの穴や崩れがないよう畦畔を整備する。
- ・漏水しやすい場合は、あぜ板やシートなどを使用して補強する。
(河川等への農薬成分の流出を防止する。)



お問い合わせ先

名称及び所在地	代表電話番号(直通番号) FAX番号
大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ 583-0862 羽曳野市尺度442	直通のみ(072-957-0520) FAX 072-956-8711
大阪府北部農と緑の総合事務所農の普及課 567-0034 茨木市中穂積1-3-43 三島府民ビル内	072-627-1121(622-3435) FAX 072-623-4321
大阪府中部農と緑の総合事務所農の普及課 581-0005 八尾市荘内町2-1-36 中河内府民ビル内	072-994-1515(922-3070) FAX 072-991-8281
大阪府南河内農と緑の総合事務所農の普及課 584-0031 富田林市寿町2-6-1 南河内府民ビル内	0721-25-1131 (25-1174) FAX 0721-25-0425
大阪府泉州農と緑の総合事務所農の普及課 596-0076 岸和田市野田町3-13-2 泉南府民ビル内	072-439-3601(439-0167) FAX 072-438-2069
大阪府環境農林水産部農政室推進課地産地消推進グループ 559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16咲洲庁舎22階	06-6941-0351(内線6744) FAX 06-6614-0913

農作物の病虫害に関する情報は

■ 大阪府環境農林水産部農政室推進課 病虫害防除グループホームページ
<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html>

大阪府農作物病虫害防除指針(Web版)等を公開しています

